

公民館運営審議会 会議概要

1	審議会名	令和5年度 第1回安曇野市公民館運営審議会
2	日時	令和5年6月14日 午後1時30分から
3	会場	安曇野市役所 大会議室
4	出席者	羽重会長、高橋副会長、安藤委員、中澤委員、神谷委員、望月芳雄委員、 中田委員、鈴木委員、青柳委員、一志委員、青木委員、望月みどり委員
5	市側出席者	橋渡教育長、中央公民館二木館長、豊科公民館臼井館長、 穂高公民館早川館長、三郷公民館藤松館長、堀金公民館山田館長、 明科公民館安井館長、中央公民館大蔵主事、中央公民館金井主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和5年6月23日

協議事項等

会議の概要

- 1 開 会 高橋副会長
- 2 あいさつ 羽重会長、橋渡教育長
- 3 協議事項
(1) 令和4年度公民館事業報告について
- 4 そ の 他
- 5 閉 会 高橋副会長

協議事項

令和4年度公民館事業報告について（説明：各公民館長）

【委員】

全部で3つのことをお聞きしたい。まず1つ目は中央公民館のオンライン講座について実情を教えてください。

2つ目は明科公民館で作成をしているワイナリーの動画公開がいつ頃を予定しているか、教えてください。

3つ目は各公民館で積極的にICT講座を実施していただいているが、まだまだ高齢者の方はスマホ等をスムーズに操作することができていない。相談コーナーを設けていただき、スマホ等の事を学べる機会を増やしてほしい。

【事務局】

まず1つ目は評価の方に書かせていただいた通り、撮影用機材を購入して各公民館での活用を図る場合、撮影編集技能を持った人材の不足により、オンライン活用事業が進んでいないという状況が続いている。令和5年度の予算内で技術を指導していただけないか、市内のケーブルテレビ会社へ相談したところ、使用している編集ソフト等が違うため指導は難しいと回答をいただいた。また、公民館の職員が2～3年、長くて4年程度で異動になるので、身についた技術の継承が進まず苦慮している。

【委員】

やはり外部に依頼するのではなく、内部で養成する必要がある。内部で養成するとなると、中途採用で専門職員を雇うしかないと思う。特にこれからは長い動画ではなくて、10秒から20秒ぐらいのYouTube等のPR動画が大事になってくる。動画はなかなか年配の人には難しいが、安曇野市の公式Twitterフォロワーは約6000人いる。50歳以下の若い世代は新聞を取っていないため、自分で必要な情報をホームページへ読みに行くか、TwitterなどのSNSで情報を得ているので、活用してほしい。

【事務局】

中途採用というご意見もいただきましたので、今後検討させていただきたい。市役所内部では、秘書広報課が市長の記者会見等を製作してYouTubeに公開しているので、秘書広報課及び情報政策課と相談し、技術を共有しながら購入した機材を活用できるようにしていく。

【事務局】

2つ目につきましては、当初、動画公開を5月上旬に予定していると申し上げたが、修正作業が長引いてしまった。7月上旬には公開できるよう、早急に作業を進める。

【事務局】

3つ目につきましては、失敗例をお伝えしたい。ICT講座にて去年試しに楡地区で、地元で初めてのスマホ教室を3回実施した。地区社会福祉協議会と地区公民館、三郷公民館の3者で実施し、地区社会福祉協議会には会場設営とお金を出してもらった。地区公民館は教える役割を担うスタッフを出してもらい、三郷公民館はそれをしつらえる文書の作成や、会場の応援を担当した。そんな中、3回の実施を経て、温度差がそれぞれの団体で違うという課題が見えてきた。今回の反省を活かしてまた実施したいと考えているが、まだ本年度の計画に載せられていない。また、地域公民館に来られるお年寄りの方は元気なので、自分の地区公民館に行くことが精一杯の方のことを考える必要がある。公民館だけではできないことを、地区公民館役員の賛同及び地区社会福祉協議会の協力を得てやっていく必要がある。協働で何をやりたいのかを、もう1度再編成していきたい。

【委員】

去年、三郷で実施したみさと落語会というものに参加した。残念ながら人数的には少なかったが、コロナの辛い時代にも関わらず、皆さん本当に腹の底から笑うことができていた。他にも、会場の皆さんと一緒に南京玉すだれに参加することで、楽しく見ることができた。やはり、笑いがあるということは、非常に大事なことだと感じた。他の公民館でも、できたらそのようなことを取り入れてほしい。

続いて話は変わるが、コロナが5類に移行された。新聞等を読んでも、世の中にどのくらいの感染者が出ているのか、全く分からない状態である。公民館としても基本的な感染対策をしているが、ニュースを見ると日本人は非常に感染者も少なく、外国と比べて感染して免疫を得るという事も少ない。今後、新しい菌が入ってきたら、爆発的に増えるのではないかという事を指摘しているセミナーの方もいる。そのため、基本的な最低限の感染対策は、公民館としても今後も続けてやっていただきたい。

【事務局】

現在は安曇野市中央公民館の方からアウトラインが出ているので、それに沿って対応している。5月8日以降、5類に移行したという事から、感染対策に関しては大分緩和されてきているので、TPOをわきまえながら対応していつている。利用者に関しては、消毒等努力義務になっているものもあるが、公民館職員がしっかりと認識を持ちながら対応する必要がある。今後何が起こるか分からないため、もう1度手綱を締め直して動いていく必要がある。

【委員】

2点お聞きしたい。まず1点目ですが、安曇野市公民館大会の事例発表について、毎年どういった条件で発表者を選出しているのかお聞きしたい。

2点目は生涯学習情報誌～Link～というもの毎年出されているが、公民館や交流学習施設、本庁舎にしか置いてないよう見受けられる。この情報誌はよくできているので、できればJAの主要窓口やJRの主要駅等にも置いたらどうか。

【事務局】

まず1点目ですが、事例発表につきましては地域ごとの持ち回りになるため、今年の担当である堀金地域の方をお願いした。

2点目ですが、実際、大型店舗等にも設置を依頼している。大型店舗には昨年から東側の入口に、市政情報ということで、市の情報をモニターにて常時案内している。そのモニター下のラックに設置した分は、1週間程度で全てなくなった。市のホームページでも公表しているが、やはり紙の冊子の方が手にとって見やすいため、増刷の必要性は高い。しかし予算の都合もあるので、今後も限られた予算の中で紙ベースのものを作り、もっと効率的に配置していく。また、今回設置場所にJA等の候補を挙げていただいたので、今後打診していきたい。市内の小売店によっては、責任者の店長が設置の有無について判断するところもあるが、やはり店内が非常に雑然としてしまうことや、置くスペースが限られていることから設置が難しい場合もある。今後も効率的な場所に配置していきたい。

【委員】

各公民館の活動に感銘を受けた。特に三郷地域のひまわりクラブは、すごく大事な事だと思った。最近、思春期・青年期の子どもたちや大人のような事件が起きている。その背景には、やはり幼児期の子育ての環境や、愛着の形成の問題があると言われている。昔は幼児期の子を持つ親との交流を自分たちだけであることができたと思うが、最近は交流の場を作らないとなかなか難しい。そのため、こういった交流の場を設けて発信していくということは、とても素晴らしいと感じた。それによって母親たちがどれくらい救われるか、救われた母親によって子どもたちがどれだけ愛されるかが、とても大事であると思う。特に孤立した母親が多いように思えるため、こういった場所があることで、参加できなかったとしても大きな安心感を得ることができるように思える。公民館が交流できる場所を用意することで、地域で子育てをするという雰囲気を醸成することに繋がっていく。また、推進計画の11ページに生涯学習の妨げ要因として、25歳から44歳までのところに、子育て中のためという理由が掲載されている。そのため、子育て等に対応する事で、生涯学習に地域の皆さんの気持ちが向いていくと思う。さらに24歳を見ると、きっかけや情報がないことから、4つの世代区分のなかで、最も生涯学習に取り組んでいる人が少なくなっている。そのようなことから、このひまわりクラブの実践というのは非常に意味があると思う。